

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名			
○保護者評価実施期間	R6年 12月 1日		～ R7年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 3
○従業者評価実施期間	R6年 12月 1日		～ R7年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○訪問先施設評価実施期間	R6年 12月 1日		～ R7年 2月 28日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 3月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	通園先の様子、訪問先の子どもの情報を共有できること	子どもの様子や、訪問先の状況などをよく理解しながら子どもの最善の利益になるよう話し合っていくようにしている。またそれについて保護者と共有する	お互いでの過ごし方をよく知り、うまくいったことや、困っていることなどをよく情報共有しながら、支援方法について話し合い、実践し、見直していくこと。さらに保護者とも情報共有を深める。
2			
3			

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用児の人数が少ない	訪問員が兼務ということもあったり、サービスを知らない方もいて、なかなかサービスを広げることが難しかった。	鎌倉市の指定管理を受けた事業所として、利用児を卒園生にも広がるようサービスを十分周知し、必要な方がサービスを受けられるように努める
2	訪問先で過ごす時間が短い利用児が多く、自由時間での過ごし方について話し合うことが多いため、目的意識を持ちにくかった	フォーマル、インフォーマルにかかわらず、アセスメントをする機会がなく、評価のすり合わせなどをしないまま情報共有や行動観察に入ったこと	訪問についての計画、利用児への個別支援計画などを共有し、自由時間であっても訪問先で過ごす時間についての目標を話し合っていくことが必要
3			